

トピック

B

## 運動・スポーツ活動と指導者に対するイメージ

慶應義塾大学 体育研究所 教授

佐々木 玲子

スポーツ庁では、現在、学校の運動部活動の地域移行の実施に向けて検討が進められている。多くの検討事項がある中、「指導者」についてもその一つであり、指導者にふさわしい資質とは何か、また適切な人材をどのように確保・育成していくかなど、十分な対策が求められる。子どもたちにとっては、どのような指導者に会い、どのような指導を受けたかということが生涯にわたるスポーツライフに影響を及ぼす可能性もあるだろう。特に学齢期の子どもたちにとっては、実施の場がある程度限られる中、どこにあっても本来のスポーツを楽しむことが十分に満足されるような環境のひとつとしての指導者の存在は重要であろう。

本調査では、12～21歳の中学校・高校・大学・短大・高専・専門学校・勤労者のうち、学校の運動部やサークル、あるいは民間や地域のスポーツクラブに加入している者を対象に、実際に指導を受けている指導者にどのような印象を持っているかをたずねている。本稿では、子どもたち自身に直接関与する指導者に対してどのような印象（イメージ）を持っているのか、性別、学校期、運動・スポーツの好き嫌いや活動の程度などからみた特徴について分析、検討した。

### B-1 運動部・スポーツクラブへの加入状況

表B-1に、現在の学校運動部やサークル、民間のスポーツクラブなどの加入状況について、それぞれに加入しているスポーツクラブ・運動部の割合、及びどこにも加入していない者の割合の年次推移を示した。

2017年及び2019年の結果とあわせて経年的にみると、学校の運動部、スポーツサークルおよび民間のスポーツクラブへの加入者は、2017年、2019年、2021年と経年的に減少の傾向にあり、また地域のスポーツクラブへの加入者は2019年に比べて2021年では減少している。反対に、どこにも加入していない者は2017年50.8%、2019年51.5%、2021年55.4%であり、経年的に増加の傾向を示している。

全般に、クラブや部活動に所属してスポーツを実施する者が少しずつ減っている様子がうかがえる。なお、2019年から今回調査の2021年の減少には、新型コロナウイルス禍（以下、「コロナ禍」）の影響が加わっている可能性も考えられる。

表B-2には、スポーツクラブ・運動部への加入状況別にみた運動スポーツの好き嫌いを男女別に示した。回答は「好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」から選択しているが、本稿では4つのうちの前者2つを「好き」、後者2つを「嫌い」としてまとめた。

男女ともに、クラブ加入者の方が未加入者に比べて

運動・スポーツが好きだと回答する者の割合が統計的に有意に高かった(男子;  $\chi^2=70.374$ ,  $p<0.001$ 、女子;  $\chi^2=63.781$ ,  $p<0.001$ )。また、加入者、非加入者別に好き嫌いを男女で比較すると、どちらにおいても男子が女子に比べて運動・スポーツが好きだと回答する割合が統計的に有意に高かった(加入者;  $\chi^2=9.345$ 、

$p<0.01$ 、未加入者;  $\chi^2=12.945$ ,  $p<0.001$ )。スポーツクラブ・運動部に加入している者の中においても、運動・スポーツが嫌いだと回答する者は、男子で3.9%、女子で9.4%であり、定期的に運動をしていながら運動・スポーツそのものは嫌いな者が一定数存在していることがわかる。

【表B-1】 加入しているスポーツクラブ・運動部の種類の年次推移(12~21歳:複数回答)

(%)

スポーツクラブ・運動部	2017年 (n=1,620)	2019年 (n=1,665)	2021年 (n=1,652)
学校の運動部活動	39.0	37.3	35.1
学校のスポーツサークル	4.4	4.8	3.6
民間のスポーツクラブ(スイミングクラブや体操クラブなど)	5.0	4.8	3.7
地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団や地域のスポーツ教室、道場など)	4.8	5.9	5.0
その他	0.5	1.1	1.0
運動部・サークル・クラブなどに入っていない	50.8	51.5	55.4

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

【表B-2】 スポーツクラブ・運動部への加入状況別にみた運動・スポーツの好き嫌い(12~21歳:性別)(複数回答)

男子			女子			【性別比較】 カイ2乗検定 漸近有意確率(両側)
	好き	嫌い		好き	嫌い	
クラブ加入 (n=437)	96.1%	3.9%	クラブ加入 (n=298)	90.6%	9.4%	0.002
クラブ非加入 (n=393)	76.3%	23.7%	クラブ非加入 (n=519)	65.3%	34.7%	0.000
【クラブ加入状況比較】 Pearsonのカイ2乗検定 漸近有意確率(両側)	0.000		【クラブ加入状況比較】 Pearsonのカイ2乗検定 漸近有意確率(両側)	0.000		

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

COMMENTS

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2021、「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

- 仲間や指導者に恵れているので悩みなどはありませんが、コロナ禍で大きな目標にしていた大会が無くなること、練習時間が短くなるのが残念です。(14歳男子の母親)
- 本人のやる気に任せていますが、いろいろな種目に取り組むとどれもが中途半端にならないか危惧しています。しかし、子どもがやりたい!と意欲があるうちは、なるべく一緒に保護者も(チーム任せだけにしないで)楽しむ姿をみせるようにしています。(7歳男子の母親)

## B-2 運動部・スポーツクラブの指導者に対するイメージ

本調査では、学校の運動部・サークル、民間・地域のスポーツクラブに加入していると回答した者を対象として、「最もかわりのある指導者に対する印象」を選択肢から選ぶ（複数選択可）よう求めた（問7、SQ2：調査票 p.197）。表B-3には、「指導者に対する印象」の選択肢に対する回答について、全体（n=722）および男子（n=430）、女子（n=292）別にそれぞれ選択された割合を示している（順位は全体の選択の割合が多い順）。

全体では「熱意がある」45.4%が最も多く、続いて「親しみやすい」45.3%、「信頼できる」39.6%となっている。男子の上位3位の順位は全体と一致しており、それぞれ48.6%、47.9%、42.8%であり、選択している割合も高い。女子では「親しみやすい」41.4%、「熱意がある」40.8%、「楽しい・面白い」39.0%の順であった。

ここにあげられた1位から12位までの選択項目は指導者に対して好意を示すポジティブな印象を表すもの、

それ以下の順位のもの好意的ではないネガティブな印象を表すものと解釈でき、二分することができる。この二分割では、選択の割合はポジティブな印象を持つものが圧倒的に多いが、「感情的に怒る」（全体；7.3%、男子；8.6%）、「ひいきや不平等な扱いをする」（女子；7.2%）を始めとしてネガティブな印象も選択されている。自らの意思でグループに加入しスポーツを実施している状況ではあるものの、指導者に対しては必ずしも好ましい印象を持っていないケースがあることがうかがえる。

表B-4は、指導者に対する印象について学校別別に示したものである。加えて、ここでは表に示すように「指導者に対する印象」をポジティブな印象「ポジティブイメージ」とネガティブな印象「ネガティブイメージ」に分類し、さらにそれらの回答をポジティブイメージでは「人間性」「指導力」「生徒・選手との関わり」に分類し、ネガティブイメージでは「人間性」「生徒・選手との関わり」

【表B-3】 加入しているスポーツクラブ・運動部の指導者に対するイメージ  
（12～21歳：全体・性別）（複数回答）

順位	指導者に対するイメージ	全体 (n=722)	男子 (n=430)	女子 (n=292)
1	熱意がある	45.4	48.6	40.8
2	親しみやすい	45.3	47.9	41.4
3	信頼できる	39.6	42.8	34.9
4	楽しい・面白い	39.1	39.1	39.0
5	専門的な知識が豊富	37.8	37.4	38.4
6	指導がうまい・わかりやすい	35.0	34.7	35.6
7	叱るときには叱ってくれる	31.0	32.3	29.1
8	生徒・選手への理解がある	29.9	31.2	28.1
9	話を聞いてくれる	26.9	27.7	25.7
10	誰にでも平等に接する	26.3	27.9	24.0
11	気持ちを盛り上げてくれる	25.9	27.0	24.3
12	指導内容に矛盾がない	16.2	16.3	16.1
13	感情的に怒る	7.3	8.6	5.5
14	決めつけるような言い方をする	6.2	6.7	5.5
15	ひいきや不平等な扱いをする	5.3	4.0	7.2
16	指導内容がたびたび変わる	4.7	4.4	5.1
17	高圧的・威圧的な態度をとる	4.0	4.2	3.8
18	生徒・選手から認められていない	3.3	2.8	4.1
19	指導者はいない	2.9	1.9	4.5
20	生徒・選手のことを考えない	2.2	1.9	2.7
21	やる気がない	1.8	1.4	2.4
22	暗い・冷たい性格	1.1	0.7	1.7
23	会ったことがない・関わりがない	0.6	0.0	1.4

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2021

に分類した。

各学校期での選択の割合は、全般に学校期が上がるにつれて減少している。学校期が上がるほど、1人あたりの選択数が減少することから、指導者に対する印象は単純化する、あるいは強い印象を持たなくなる傾向にあるといえるかもしれない。個々の項目をみると、「熱意がある」は中学校期では最も多く(54.5%)、高校期でも2番目(44.0%)であるが、大学期では他の学校期よりも低くなっている(21.1%)。「指導がうまい・わかりやすい」も同様に学校期が上がるほど選択する割合は低くなっている(中学校期46.9%、高校期27.8%、大学期15.8%)。「生徒・選手への理解がある」「話を聞いてくれる」では、中学校期、高校期に比べて大学期では選択の割合が低くなっている。

また、全体にネガティブな印象は少ないが、その中で

も「感情的に怒る」「決めつけるような言い方をする」といった印象は、大学期に比べて中学校期、高校期でより選択の割合が高くなっている。

これらの印象全体を「ポジティブイメージ」と「ネガティブイメージ」に大別して学校期で比較すると(カイ2乗検定)、各学校期の間で選択の割合に統計的に有意な差がみられた。「ポジティブイメージ」では、中学校期(40.7%)と高校期(29.9%)および大学期(17.7%)の間(ともに $p<0.001$ )、高校期と大学期の間( $p<0.01$ )に有意な差がみられ、学校期が上がるほど選択の割合が低かった。一方「ネガティブイメージ」は大学期で低く、高校期との間に差がみられた( $p<0.05$ )。これらの結果から、指導者への親密性や依存度は、より年齢の低い生徒・選手の方が高いことが推察される。

【表B-4】学校期別にみた加入しているスポーツクラブ・運動部の指導者に対するイメージ (12~21歳:複数回答)

イメージの分類		指導者に対するイメージ	中学校期 (n=354)	高校期 (n=252)	大学期 (n=95)	(%)
ポジティブ イメージ	人間性	親しみやすい	46.6	46.4	33.7	
		熱意がある	54.5	44.0	21.1	
		信頼できる	47.2	36.9	24.2	
		楽しい・面白い	46.9	32.5	28.4	
	指導力	指導がうまい・わかりやすい	46.9	27.8	15.8	
		専門的な知識が豊富	45.2	36.1	21.1	
		指導内容に矛盾がない	22.9	11.5	6.3	
		気持ちを盛り上げてくれる	32.5	21.4	13.7	
	生徒・選手 との関わり	生徒・選手への理解がある	34.2	30.2	18.9	
		話を聞いてくれる	34.2	26.6	4.2	
		叱るときには叱ってくれる	45.5	21.4	8.4	
		誰にでも平等に接する	31.6	24.2	16.8	
			ポジティブイメージ全体	40.7	29.9	17.7
ネガティブ イメージ	人間性	感情的に怒る	8.5	7.9	2.1	
		暗い・冷たい性格	1.1	0.8	1.1	
		やる気がない	1.1	3.2	1.1	
	生徒・選手 との関わり	高圧的・威圧的な態度をとる	4.5	4.4	2.1	
		決めつけるような言い方をする	6.8	8.3	0.0	
		ひいきや不平等な扱いをする	5.9	5.6	3.2	
		指導内容がたびたび変わる	5.1	5.6	2.1	
		生徒・選手のことを考えない	2.0	3.6	0.0	
生徒・選手から認められていない	3.4	4.4	1.1			
		ネガティブイメージ全体	4.3	4.9	1.4	※2

※1 中学校期>高校期( $p<0.001$ )  
 中学校期>大学期( $p<0.001$ )  
 高校期>大学期( $p<0.01$ )

※2 高校期>大学期( $p<0.05$ )

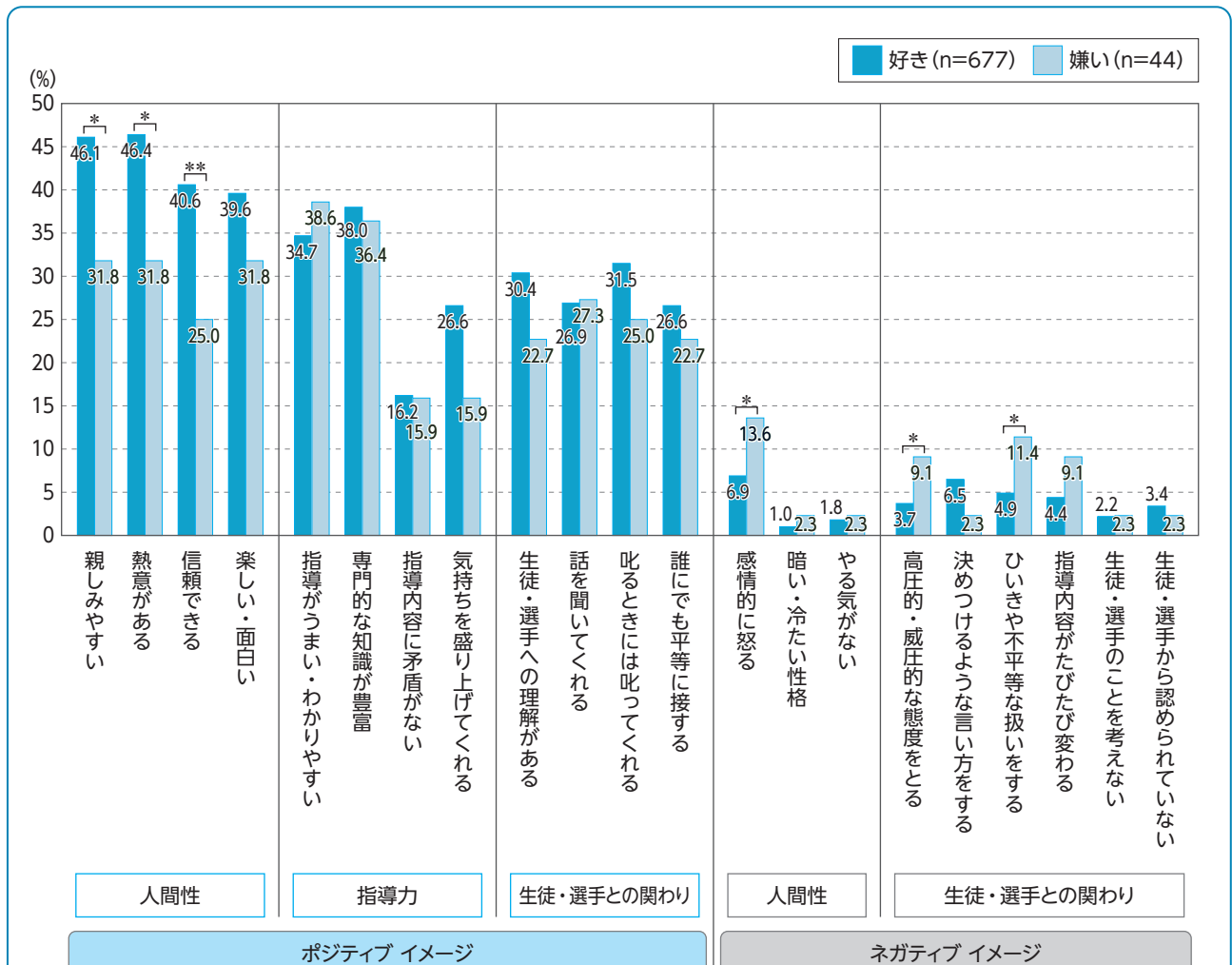
資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

## B-3 運動・スポーツの好き嫌いと指導者のイメージ

図B-1は、指導者に対するイメージを運動・スポーツの好き嫌い別に示したものである。スポーツクラブ・運動部に加入している者を対象としているため、「嫌い」群は少数であり群間のn数に偏りはあるが、それぞれの印象ごとに選択の割合を「好き」「嫌い」両群で比較したところ(カイ2乗検定)、ポジティブイメージの「親しみやすい」( $p<0.1$ )、「熱意がある」( $p<0.1$ )、「信頼できる」( $p<0.05$ )で「好き」群が有意に高かった。ネガティブイメージの「感情的に怒る」「高圧的・威圧的な態度をとる」「ひいきや不平等な扱いをする」(すべて $p<0.1$ )で

「嫌い」群が有意に高かった。指導者の人間性に対する好印象と運動・スポーツ好きとの関連が示唆された。

一方で、運動・スポーツ嫌い群では、指導者に対するネガティブな印象を持つ割合が高く、スポーツを行っていないながらも嫌いだと感じているひとつの要因に指導者の存在が関係している可能性も考えられる。ここでは加入者のみの回答となっているが、非加入者を含めた全対象における運動・スポーツの好き嫌いとスポーツ指導者に対する印象も興味深い。



【図B-1】 運動・スポーツ好き嫌い別にみた指導者に対するイメージ(12~21歳:複数回答)

注) 統計処理にはカイ2乗検定を用いた \*: $p<0.1$  \*\*: $p<0.05$

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

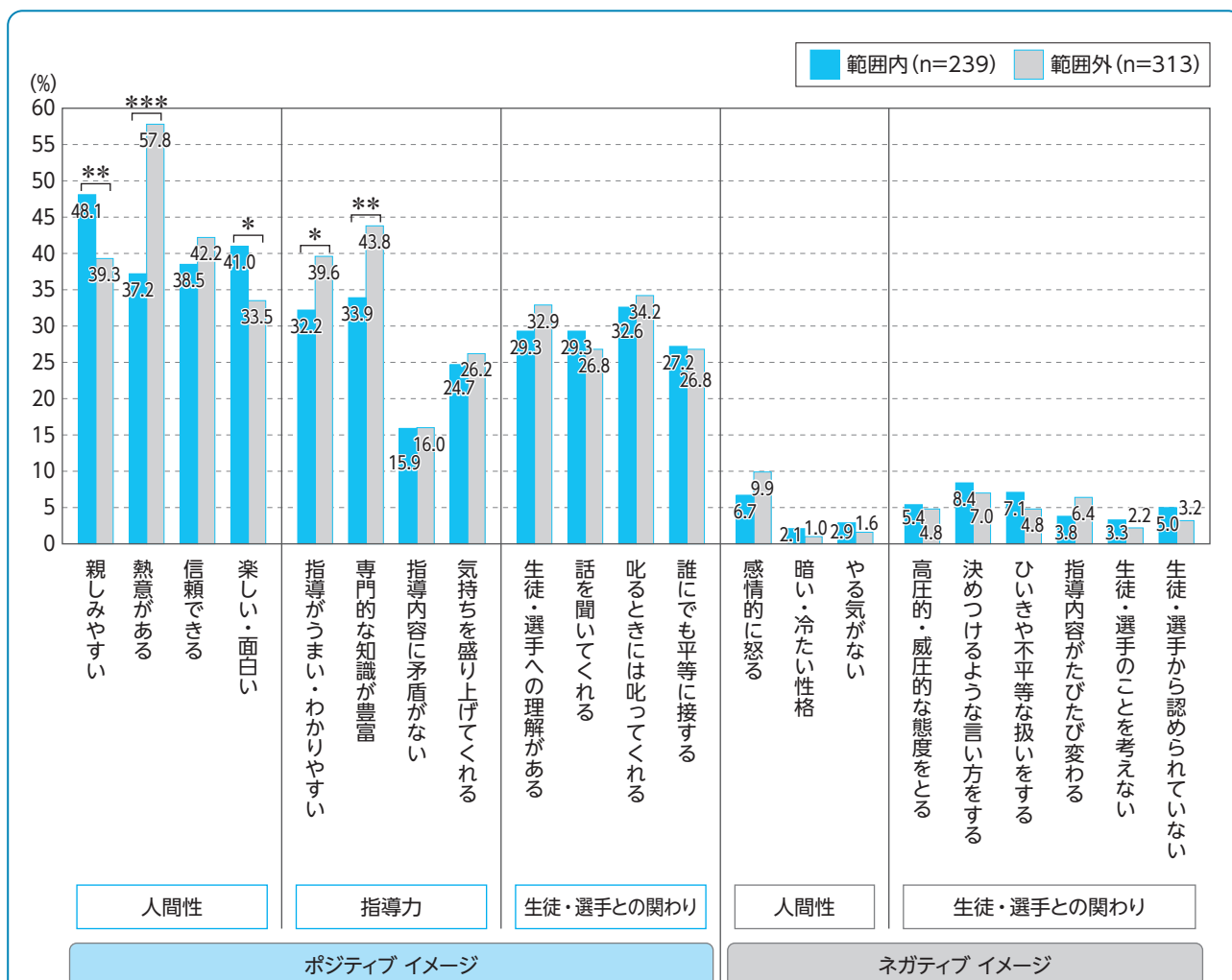
## B-4 学校運動部での活動状況と指導者のイメージ

本調査では、学校の運動部に所属している者に対して、部活動の活動状況をたずねている。その回答を、スポーツ庁により策定されたガイドライン（2018）の範囲内・範囲外で分け、指導者に対するイメージを活動の多寡の実態別に示したのが図B-2である。カイ2乗検定を用いて、ガイドラインの範囲内と範囲外の者における指導者に対する印象を比較した。

指導者に対して「親しみやすい」(p<0.05)、「楽しい・面白い」(p<0.1) イメージを持つ者の割合は「範囲内」が「範囲外」より有意に高かった。また「熱意がある」(p<0.001)、「専門的な知識が豊富」(p<0.05)、「指導が

うまい・わかりやすい」(p<0.1) というイメージを持つ者の割合は「範囲外」の方が有意に高かった。

すなわち、ガイドラインを超える範囲で活動している者は指導者に対して、より「熱意を持って指導」をし「指導がうまく」「その種目の専門的知識が豊富」なイメージを持っており、一方でガイドラインの範囲内で活動している者は、より「親しみやすく」「楽しい・面白い」イメージを持っていると読み取れる。ガイドラインの範囲を超える、すなわち活動量の多い部活動集団とそこで指導する熱心な指導者のマッチングが推測される。



【図B-2】運動部活動ガイドライン別にみた指導者に対するイメージ(12~21歳:複数回答)

注) 統計処理にはカイ2乗検定を用いた \* : p<0.1 \*\* : p<0.05 \*\*\* : p<0.001

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

## B-5 まとめ

本稿では、学校の運動部や民間、地域のスポーツクラブなどの組織に加入してスポーツ活動を行う12~21歳の青少年が、それぞれの指導者に対してどのようなイメージを持っているかを検証した。ここではあくまで子どもたち、すなわち指導を受ける側からのイメージではあるが、ここから指導者や指導環境の実態をある程度推測することはできるであろう。

学校期からみると、年齢が低い子どもたちほど指導者に対するイメージを強く持つ傾向が推測され、また部活動でも熱心な指導の様子を垣間見ることができる。ただし、必ずしも好ましいイメージだけとは限らず、少ないながらも指導者にネガティブなイメージを持っている者もいる。

前述のとおり、学校の運動部活動の地域移行の実施

について具体的に検討される中、指導者にふさわしい人材の確保、育成は重要な課題となっている。文部科学省(2013)の「運動部活動での指導のガイドライン」では、実際の活動における効果的な指導に向けて、適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促すよう求められている。また、直井ら(2018)によれば、高校球児の求める指導者像は、確かな指導力を有しながらも選手の主体的な活動を支援し、明るさや愛情を持って選手と接し、親密な関係を築くことのできる人物だという。その種目の上達を望む子どもたちが、指導者とも良好な関係を保ちながら、能力を獲得しつつ成長していける適切な場が提供されることが望ましいといえよう。

### 参考文献

文部科学省(2013) 運動部活動での指導のガイドライン

直井勇人ほか(2018) 高校球児が求める指導者像, 野球科学研究, 2, pp30-45

笹川スポーツ財団(2017) 12~21歳のスポーツライフに関する調査2017

笹川スポーツ財団(2019) 12~21歳のスポーツライフに関する調査2019

スポーツ庁(2018) 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

## COMMENTS

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2021、「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

- 食事のバランスを考えたり、必要以上に口を出さないようにしたり意識をしています。子どもが困っている時を含め話したいことや思いを受け止めるよう意識しています。(16歳男子の母親)
- コロナ禍で今までのように、大会などができないので、1度しかない学生たちのことを大人たちが考えてあげてほしい。大人にとって毎年のことでも子どもたちは違うことを忘れないで運営してほしい。(18歳男子の母親)
- 中学校での部活の幅がもっと広がると良いと思います。小学校でも色々なスポーツをもっとしてほしいし、いろいろなスポーツをさせてあげたい。体験教室などがもっとたくさんあるとうれしい。(10歳男子の母親)
- 運動部活動に入っても人数が少なく試合ができなかったりする。運動部活動以外でもやりたいスポーツのクラブやチームが地域にあると良いと思う。(18歳女子の母親)
- 自転車のりやサイクリングをやらせたいが、練習にふさわしい場所が少ない。水泳教室に3~4年通っていたが、コロナ禍の影響で教室が休みになったためなかなか上達できず結局やめてしまった。苦手なことにも挑戦してほしいし、壁をのりこえれば楽しさも見えてくると思うので再開させたいが、うまくやる気をひき出せず悩んでいる。(8歳女子の母親)